

学部・研究科名

農学部

学部長・研究科委員長名

馬場 正

学科名・専攻名

農学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 講じている ☐ 一部講じている ☐ 講じていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	カリキュラム・ポリシーに基づき、毎年見直しを行っている。とくに 2018 年度 4 月の学部改組による授業科目の大幅変更を踏まえ、学年進行にともなう授業の円滑な進行を図りながら、実施状況の把握に努めた。	3 年生以降の演習および卒業論文作成を意識した教育を、1 年生対象の基礎演習と共通演習など複数の科目で実施した。とくにプレゼンテーション力を高めることを目的とした。	シラバス作成、成績評価を大学の基準を順守するとともに、ディプロマ・ポリシーの検討を行い、あらためて教員間でその意味を共有した。	特に卒業論文は、学生との密度の高いコミュニケーションが必要であり、重視している。また客観的評価として、優れた卒業論文に学科長賞を授与、今年度からは各研究室の代表による学科の卒論発表会を開催して、多くの学生の意欲向上を図っている。	教育課程及びその内容、方法の適切性は、学科長・主事他数名の教員からなる農学科カリキュラム検討委員会を設置、検討を重ねている。定期的に学科会議などに諮問、協議して、常に改善・向上を図っている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・農学原論、農業実習（一）（二）（三）および生物学実験などを配し、農学の起源を踏まえて、実習と実験を重視したカリキュラム体系になっている。	【長所】 ・卒業論文を早い段階で意識させ、問題解決能力、計画力、思考力やプレゼンテーション力を身に付けさせられる。	【長所】 ・実習、演習を重視することで、知識だけでなく、思考力、判断力、問題解決能力を身に付けさせられる。	【長所】 ・全員に卒業論文に取り組ませることで、学習成果の把握を可能としている。	【長所】 ・もともと伝統のある農学科の特徴である実験、実習を重視した教育方針を継承されている。
	【特色】 ・実学を意識した実験、実習を実施している。学科内の 6 研究室の特色を最大限に活かした生物学実験(2 年次配当科目)を実施して、3 年次での専門分野を学ぶ研究室選択に役立っている。	【特色】 ・卒業論文を早い段階で意識させ、問題解決能力、計画力、思考力やプレゼンテーション力を身に付けさせられる。	【特色】 ・社会人や大学院生として主体的、協働的な活動ができる能力を重視した評価となっている。	【特色】 ・卒業論文は 3 年次のできるだけ早い段階から意識付けを行い、卒業後の幅広いニーズに対応できるよう配慮している。	【特色】 ・実習は伊勢原農場の協力が欠かせない。協力を得ながら、充実した内容となっている。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし。	【問題点】 ・特になし。	【問題点】 ・特になし。	【問題点】 ・特になし。	【問題点】 ・教員の業務量増加で、本取り組みに充てる時間が不足している。
	【課題】 ・オンデマンド教材、Teams や Forms など遠隔授業で培った手法を活かした授業の更なる改善。	【課題】 ・オンデマンド教材、Teams や Forms など遠隔授業で培った手法を活かした授業の更なる改善。	【課題】 ・オンデマンド教材、Teams や Forms など遠隔授業で培った手法を活かした授業の更なる改善。	【課題】 ・オンデマンド教材、Teams や Forms など遠隔授業で培った手法を活かした授業の更なる改善。	【課題】 ・履修において授業の選択幅が狭い。 ・卒業時に取得できる資格がない。
根拠資料名	資料基 1（令和 5 年度時間割）	資料基 2（卒業論文シラバス）	資料基 3（農学科 3 ポリシー）	資料基 4（令和 5 年度 農学科卒業論文発表会報告）	資料基 1（令和 5 年度時間割）

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	2018年4月からの学部改組が実施されたことを踏まえ、学科の独自性を確保しながら、農学部全体を盛り上げるべく、出張講義等に赴き学生募集に取り組んだ。さらに、入学センターと連携し、新しい入試制度である指定校選抜の指定校を倍増、今年度は18名の志願者であった。加えて、個々の選抜制度の目的に沿って、口述試験（面接）の評価基準を更新した。共通テスト利用でも2科目型の導入、3・4科目型でも理科の科目を増やすなど、これまで以上に多くの生徒が志願できるよう環境を整えた。	農学部入試広報委員会と連携を取りながら、改善・向上に向けて取り組んでいる。特に出張講義には力を入れて、高校生からの反応を見極め、アドミッション・ポリシーなどの改善に向けた参考とした。さらに、入試イベントは可能な限り対面形式として、模擬農学科体験、教員との懇談を図り、受験生にできる限り寄り添い、農学科の特徴を伝えることに努めた。遠隔形式においても、対面形式に劣ることが少なくなるように、時間を掛けて対応して農学科の特徴を伝えることに努めた。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・幅広い入試制度で志願者数を確保できる。	【長所】 ・受験生ひとり一人に時間を掛けて対応することで、農学科教員の学生と一緒に学び、研究に取り組む姿勢、雰囲気を伝えている。
	【特色】 ・積極的に若手教員を動員して、長期的に一貫性を保ち公正な入学者の選抜を実施できる体制を整備した。 ・出張講義など高校等からの要請に可能な限り対応し、かつ若手教員の積極的な派遣により、最新の研究内容を紹介して、農学科の魅力の広報に尽力している。	【特色】 ・農学部全体の取り組みの中で、農学科としての特徴を明確にした。その中で、生産農学という軸は維持しつつ、消費者のニーズを意識する生産から流通までの学びが理解できる取り組みに努めている。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・年内入試で入学予定者を定員の6割とする目標が達成できていない。	【問題点】 ・改善に向けた取り組みを検討する時間が足りない。
	【課題】 ・入試イベント等への参加を促す情報発信に更なる創意工夫が必要。高校生、高校教諭および保護者など対象毎に魅力を持ってもらい、それらが求めている情報の発信が不十分。大学全体の課題である入試制度の改善についても意見集約、それらを基にした議論ができていない。スカラシップ入試の導入など検討にスピード感が欠けている。	【課題】 ・改善に向けた取り組みを十分に検討できる時間が捻出できていな。
根拠資料名	資料基5（令和5年度出張講義一覧）	資料基5（令和5年度出張講義一覧）

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ つなげている ☐ 一部つなげている ☐ つなげていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	本年度、大学、学部の方針に則って、農学科でも以下の通り明示した。 1. 持続可能な次世代型農業の創造に貢献できる教員 2. 農学に関する知識を基盤に、作物生産の発展に資する教育・研究能力を持つ教員 3. 農学に関する知識を基盤に、農産物の生産から流通までを支える技術の発展に資する教育・研究能力を持つ教員	学科の教育研究上の目的、教育目標、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを十分理解し、その具現化に向け強い意欲を持つ教員を研究室に配置した。さらに、研究室の教員間のコミュニケーションの向上を図るために研究棟の研究室配置をフロア毎に再配置した。新規採用の人事を進めるにあたって、編制方針を意識した。	次年度の新規採用教員（助教または准教授1名、教授2名）を公募したが採用に至らなかった。これらについて、次々年度への枠取り延長とともに、新たに助教または准教授1名の枠取りを申請、承認された。次年度の公募にあっては、できる限り早期に公募を開始し、多くの応募者を確保した上で、本学の理念を理解して、実習担当はもちろん、研究室での卒業論文指導とともに、研究室活動が担える人材を選考する。昇格および専任化については適切に対応した。	学科内の研究室横断型の卒業論文の推進などを通じて、教員の質の向上に努めた。さらに、これらが学科全体で今後取り組めるプロジェクト等のシーズとなるように、学科としての卒業論文発表会を実施した。さらに、若手教員の留学を積極的に実施している。	学部改組にともない、新生農学科も完成年度を迎えた。学科内の主任会において、教員組織の適切性について、点検・評価した。また今後の教員採用に際し、農学科の未来を見据えた議論を行った。
現状説明を踏まえた 長所・特色	【長所】 ・農学科のディプロマ・ポリシーに沿った内容になっている。	【長所】 ・実習教育を意識した教員配置になっている。	【長所】 ・新規採用については、当該研究室の今後の方向性を議論、幅広く、かつ深い専門性はもちろん、本学の教育を理解し、人材育成にも貢献できる教員を幅広く募っている	【長所】 ・研究室間のコミュニケーションを意識し、必要に応じて各研究室の教員の強みを活かして、研究室横断的に卒業論文の指導に取り組んでいる。さらに、留学により国際的な感覚を養っている。	【長所】 ・学科の教授で構成している主任会で議論、方向性を決定している。
	【特色】 ・研究室はもとより、分野を意識した内容になっている。	【特色】 ・実学主義を踏まえた研究活動を教育に活かせる教員を配置している。	【特色】 ・研究者としてはもちろん、教育者として、多くの人材を育てることのできる人材を求めている。	【特色】 ・各研究室との緊密な連携を図ることで、教育や研究の成果の社会実装を推進、教員の資質向上を図っている。	【特色】 ・主任会での方向性を学科会議で示し、学科全体で議論することで、組織全体の改善、向上を図っている。
現状説明を踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし。	【問題点】 ・特になし。	【問題点】 ・新規採用者決定の時期が極めて遅い。	【問題点】 ・留学等による教員不在期間の対応。	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・特になし。	【課題】 ・特になし。	【課題】 ・迅速な採用手続による採用決定の早期化と博士号の有無など応募条件の見直しによる応募者の確保。	【課題】 ・留学等による教員不在期間の代替教員の確保など、研究室の負担軽減と教育の質の低下の回避。	【課題】 ・議論に充てる時間が足りない。
根拠資料名	資料基 3（3つのポリシー）	資料基 3（3つのポリシー）		資料基 6（研究室研究概要）	資料基 7（学部・学科・課程紹介）

学部・研究科名動物科学

学部長・研究科委員長名馬場正

学科名・専攻名動物科学

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☐ 講じている ☒ 一部講じている ☐ 講じていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	R6 年度より新カリキュラム開始、進捗を確認する予定。	・学部再編で新たに学科に配当されたスペースを共通講義室または大学院生同士の交流自習室として整備した。 研究室ごとの発表会などを学部学生に公開もしくは合同開催し、専門研究への動機付けを行っている。	・進級、卒業判定会議の結果を学科教員全員に開示し、学科会議にて確認している。 ・学科目は出来る限り複数教員が担当し、相互に成績確認しながら最終評価を下している。	・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）は、毎年学科会議において変更点の有無を含め確認している。	・教育課程及びその内容、方法の適切性について大学で実施している学生による授業評価アンケートの結果を考慮し、講義内容の改善や向上を試みている。
現状説明を踏まえた 長所・特色	【長所】 動物科学科として必要な科目を充実させる	【長所】 ・討論への自由参加	【長所】 ・学科教員による成績不良学生の把握 ・成績評価の共通理解	【長所】 ・学習成果の共通理解	【長所】 ・定期的な点検・評価 ・授業担当者を複数とすることで教員相互の点検が可能となる。
	【特色】 ・農学部として必要な実習を学生に提供する。就職先に応じた新科目の開講。	【特色】 ・オープンスペースの活用	【特色】 ・複数教員による学生評価	【特色】 特になし	【特色】 ・新カリ作成に当たり、教職も含めた既得資格の存続と食品衛生管理者任用資格の再取得のためのカリキュラムとした。
現状説明を踏まえた 問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・必須実験の開講に伴い学生全員に機材の確保が難しい。	【問題点】 ・一部が公開・交流に閉鎖的である。	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし
	【課題】 ・新規購入分で対応できるのか見定める	【課題】 ・公開と交流の効果を学科内で確認しその効果を共通認識する。	【課題】 特になし	【課題】 特になし	【課題】 特になし
根拠資料名	カリキュラム・ポリシーとシラバス	オープンスペース利用記録	合同教授会、進級等の資料 学科会議記録	学科会議記録録	FD 委員会記録

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	・学部としての学生像を踏まえ、学科の独自性を確保しながら、学生募集等に取り組んだ。また求める学生像をポリシーに基づきより明確にした。	・出張講義を積極的に行っている。高校生ならびの高校教員からの反応を見極め、アドミッション・ポリシーなどを改善した。 ・選抜入試制度毎の学生の GPA、研究室入室後の卒業論文への取り組みなどの評価、検証を行うべく準備している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・アドミッション・ポリシーに基づいた入学試験科目の設定	【長所】 ・学部、学科としての制度や体制の見直し
	【特色】 特になし	【特色】 特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・指定校・センター入試などの入学者数の確保	【問題点】 特になし
	【課題】 ・センター試験等の受験者の推移を注視する。	【課題】 特になし
根拠資料名	入学センター入試選考委員会記録	入学センター入試選考委員会記録

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☐ つなげている ☒ 一部つなげている ☐ つなげていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	・大学・学部の方針に則り，動物に係る生殖・遺伝・生理といった生命科学関連領域、および栄養・衛生・動物行動といった良質で安全な食料を生産する生産科学領域で活躍できる人材を養成し得る、強い意欲と能力を持った教員をバランスよく配置している。	・教育研究上の目的、教育目標、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを十分理解し、その具現化に向け強い意欲を持つ教員を研究室に配置している。	・教員の募集、採用は完全公募制とし大学ホームページ、JRECK-IN ならびに関連学会 HP で公開している。 ・昇格基準を満たした教員に対しては、研究室を通じて昇格申請を提出する様に指導している。	・任期制教員に対しては、毎年教育・研究目標の達成状況を面談にて確認している。教員は、大学が実施している自己点検と授業評価で質改善を行っている。	・学科教授会において教員組織の適切性(特に職階と年齢構成)について確認している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・ディプロマ・ポリシーに基づいている	【長所】 ・学際的領域をカバー出来る学科教員体制	【長所】 ・特になし	【長所】 特になし	【長所】 特になし
	【特色】 特になし	【特色】 ・研究室，分野を考慮した編成	【特色】 ・特になし	【特色】 ・特になし	【特色】 特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 特になし	【問題点】 ・分野によって教員の職階と年齢のバランスが取れていない場合がある。	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし。	【問題点】 ・教育や研究成果を客観的に測る指標を用いて適切な助言を行う態勢が必要
	【課題】 特になし	【課題】 特になし	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし	【課題】 特になし
根拠資料名	大学 HP の教員・職員公募案内、JREC-IN Portal	東京農業大学農学部教員紹介、農学部 GUIDE	大学 HP の教員・職員公募案内、JREC-IN Portal、学科会議事録	任期制教員面談記録	学科会議記録

学部・研究科名農学部

学部長・研究科委員長名馬場 正

学科名・専攻名生物資源開発学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☐ 講じている ☒ 一部講じている ☐ 講じていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☐ 行っている ☒ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	学科設置時に文科省に提出した「設置の趣旨等を記載した書類」に記載されている教育課程の編成の考え方及び特色に従って、体系的に編成している。	オムニバス形式の講義を一定数開講し、学科教員の講義に広く接する機会を設け、学生の教育効果の向上を図っている。	シラバス等で科目ごとに評価基準を明記すると同時に、初回講義において学生に説明している。シラバスの作成及び成績評価は大学の基準を順守して行った。成績および研究内容に関する優秀者を学位記授与式などで表彰する仕組みの構築に努めている。	学科専門科目ではポリシーの軸となる農業、環境、教育分野に関する学科の教育・研究目標を明示し、これらの分野の課題解決と発展に貢献できる知識と理解力の習得度を評価することに努めている。	学科教授会で現行カリキュラムの点検、新カリキュラムに向けた構想（科目の統廃合、新規科目の設置、カリキュラムの体系化等）を議論している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 1年次から、持続可能な農学の基盤となる「生物多様性」と、「資源利用」への展開を意識した教育を実施している。	【長所】 オムニバス形式の講義により学科教員の講義に広く接する機会を設けている。	【長所】 学生個々の研究や研究室活動を評価するよう努めている。	【長所】 実習ではポートフォリオの作成を指導している。演習では徹底したディスカッションにより思考を深めている。	【長所】 学科教授会は年間を通して月1回開催し、カリキュラムに関する議題を定期的に議論している。
	【特色】 1年次から、座学のみならず、実習・演習科目を前・後学期に配置している。	【特色】 各教員の幅広いフィールドワークや最新の研究内容を盛り込んだ講義により学生の興味を引き出している。	【特色】 学生の研究内容や研究室活動の実績を踏まえて優秀な学生を選定し、学位記授与式において特別賞として授与する。	【特色】 生物多様性を理解し保全・利用するための基礎および実践的な知識、技術を教授している。	【特色】 学科教授会で方向性を議論し、全員が参加する学科会議で詳細を検討、決定している。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし
	【課題】 なし	【課題】 各講義の内容を体系的に整理し、習得すべき知識を具体化、教員間で共有する必要がある	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし
根拠資料名					

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	本学科は特定の農用生物のみならず、野生の動植物、昆虫、薬用植物とそれらの遺伝資源に至る幅広い生物に興味関心を持つ学生を求めている、入試センターと連携して入試制度を整備し、学生募集等に取り組むとともに、公正な入学者選抜に努めた。	開設年度より毎年、学科独自の新入生アンケートを実施し、新入生の志望動機を分析することでアドミッション・ポリシーに基づいた学生の受け入れができているかを検証している。また、入学後のミスマッチが起きないように、学科教員間で情報共有に努めている。さらに、新入生に対して学科教員ごとにクラス別懇談会を実施し、学生生活を円滑に送ることができるよう配慮している。
現状説明を踏まえた 長所・特色	【長所】 農学系のみならず理学（生物学、化学、物理学）系、薬学系志望の学生にも魅力的な学科であること。	【長所】 アンケートを活用した入学後ミスマッチの防止に努めていること。
	【特色】 近年、農学分野でも重要性が認識されはじめた「生物多様性」をキーワードとした学科紹介を徹底していること。	【特色】 出張講義、進学相談などあらゆる機会を捉えた広報宣伝活動による学科の教育・研究への理解促進に努めたこと。
現状説明を踏まえた 問題点及び次年度への課題	【問題点】 なし	【問題点】 特になし
	【課題】 なし	【課題】 なし
根拠資料名	1. ～ 4. （2023 年度オープンキャンパス集計データ） 5. 2024 年度入試結果 資源 （取扱い注意）	6. 2023 年度新入生アンケートデータ(取扱い注意)

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ つなげている ☐ 一部つなげている ☐ つなげていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	大学・学部の方針ならびに学科設置時に文科省に提出した「設置の趣旨等を記載した書類」に記載されている教員組織の編成の考え方及び特色に従った方針を学科として明示している。	学科新設時に教育研究上の目的を十分理解し、その具現化に向けた強い意欲を持つ教員配置が行われ、維持されている。	令和5年4月に2名の新規専任教員（任期制）が着任し、学科教員の全てが専任教員で構成された。	学内外の研究費への積極的な応募による教員の個人研究の推進、他機関研究者との共同研究の推進、さらには研究室や学部横断型の学内外プロジェクトの推進などを通じて、教員の資質の向上に努めている。	教育・研究以外の業務が特定教員に偏らないよう、学科会議等を通じ、組織内での役割分担の点検・評価を行うとともに、事務職員との連携を深め作業の効率的を計るよう努めている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 実験系とフィールド系教員のバランスを意識したこと。	【長所】 実験系とフィールド系教員のバランスを意識したこと。	【長所】 大学院設置を意識した人事計画。	【長所】 調査・研究に対する意欲が高い教員が多いこと。	【長所】 特になし
	【特色】 農学の基盤となる「生物多様性」をキーワードとする学科であるため、「植物・動物・昆虫・薬草・遺伝資源」と多様な分野をカバーする教員組織を謳っていること。	【特色】 農学のみならず理学、薬学、人間環境学と多様な分野をカバーする教員構成となっていること。	【特色】 全教員が専任教員となり、適切なプロセスによる昇任を進めている。	【特色】 ほぼ全教員が学内外の研究費を獲得し、個人、共同研究プロジェクトを遂行するとともに、教育にも還元する努力をしていること。	【特色】 事務組織との連携を意識していること。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし
	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし
根拠資料名			7. 2023 年度・資源学科・学科教授会開催日程		8. 2023 年度・資源学科・教員の学内業務履歴

学部・研究科名農学部

学部長・研究科委員長名馬場 正

学科名・専攻名デザイン農学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 講じている ☐ 一部講じている ☐ 講じていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	学科設置時に文科省に提出した「設置の趣旨等を記載した書類」に記載されている教育課程の編成の考え方及び特色に従って、体系的に編成している。	座学と実習・演習との関連について説明しながら授業を展開している。 実習・演習では内容ごとに詳細を記した資料を配付している。	シラバス等で科目ごとに評価基準を明記している。 大学の基準に従った成績評価および単位認定を行った。	学生の履修・単位取得の状況および進級・卒業判定の情報を学科教員で共有し、必要に応じて学生指導を行っている。	学科内での点検・検討を行い、内容の改善・向上に取り組んでいる。
現状説明を踏まえた 長所・特色	【長所】 なし	【長所】 配付資料を活用した復習ができ、知識の定着が期待できる。	【長所】 なし	【長所】 クラス担任および研究室教員による細やかな学生指導が可能である。	【長所】 なし
	【特色】 なし	【特色】 なし	【特色】 なし	【特色】 なし	【特色】 なし
現状説明を踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし
	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし
根拠資料名	・履修のてびき	・シラバス〔農業実習(一)(二)〕〔デザイン農学基礎実験実習・演習〕〔デザイン農学専攻別実験実習・演習〕	・履修のてびき ・学生生活ハンドブック〔成績、進級、卒業〕	・履修のてびき	・学科会議議事録

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	アドミッションポリシーに従った学生募集及び公正な入学者選抜を実施した。	学生の履修状況と興味のある領域についての把握を行い、3年次以降のより専門的な教育と研究指導につなげられるように努めている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 学科の特色でもある理系のみならず文系の学生を獲得するために、文科系の入試科目を設定している。 オープンキャンパスなどで受験生に対して学科の説明を行っている。	【長所】 なし
	【特色】 なし	【特色】 なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 なし	【問題点】 なし
	【課題】 なし	【課題】 なし
根拠資料名	・大学案内 ・学科会議議事録	・学科会議議事録

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ つなげている ☐ 一部つなげている ☐ つなげていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	学部の完成年度以降、研究科を含めた適切な教員組織編成に関して、検討を随時行っている。	学科を新設する際に予定された教員組織編成となっている。	退職する教員の後任人事を適切に実施している。 研究科の安定に向け、昇任を適切に行っている。	学科会議等で意見交換・検討を行っている。	定期的に点検・評価を実施している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 なし	【長所】 各研究室 3 名の教員を配置し、円滑で細やかな教育研究活動を行うことができる。	【長所】 学科および研究室教員の専門性、年齢構成を考慮した人事を行っている。	【長所】 なし	【長所】 なし
	【特色】 なし	【特色】 学科の特色である幅広い「農」の領域をカバーする教員編成となっている。	【特色】 なし	【特色】 なし	【特色】 なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし
	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし
根拠資料名	・ 学科会議議事録	・ 大学案内 ・ 学科会議議事録	・ 学科会議議事録	・ 学科会議議事録	・ 学科会議議事録

学部・研究科名農学部

学部長・研究科委員長名馬場 正

学科名・専攻名農学科

1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	学生と教員とのより良いパートナーシップの構築による学士力の向上		
実行サイクル	__ 2 __ 年サイクル（令和5～6年度）	_____ 年サイクル（令和 年～ 年）	_____ 年サイクル（令和 年～ 年）
実施 スケジュール	4 月：新入生オリエンテーションの実施（1 年生） 5 月、7 月：クラス別懇談会の実施（1 年生） 9 月：世界学生サミットへの参加（全学年） 11 月：収穫祭文化学術展への参加（1 年生、3・4 年生） 通年：農業実習（一）（二）での学科独自の学内実習（1 年生） 通年：学外農業研修・実習報告会の開催（全学年） 通年：演習・実験・卒論研究室における取り組み（3・4 年生）		
目標達成を測定する指標	原級率、就職率および進学率		
自己評価 (☑を記入)	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	コロナ禍以前にほぼ戻り、新入生オリエンテーションなども開催できた。1 年生のクラス別懇談会や農業実習（一）のサツマイモ栽培で学生と教員との交流を図った。さらに、主に対面と遠隔との授業形式の併用で教員と学生との新しいコミュニケーションの形が確立されつつある。		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・実習や実験など教員と学生との共同作業で苦楽を共有する	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・研究室活動、各科目やオフィスアワーで教員が学生の状況を常に把握している	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・	【問題点】 ・
問題点及び次 年度への課題	【課題】 ・ZOOM や Teams 等のさらなる活用	【課題】 ・	【課題】 ・

根拠資料名	資料包 1（2023 年度新入生歓迎会 名札コンテスト 優秀作品）		
-------	-----------------------------------	--	--

2．研究に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	研究室連携型卒業論文の推進による研究シーズの発掘		
実行サイクル	____ 2 ____ 年サイクル（令和 5 ～ 6 年度）	_____ 年サイクル（令和 年～ 年）	_____ 年サイクル（令和 年～ 年）
実施 スケジュール	通年：大学院農学専攻と連携しこれを軸とした研究発表会等の開催		
目標達成を測 定する指標	連携型卒業論文数および大学院進学率		
自己評価 (☑を記入)	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	4 年生は卒業論文にしっかりと取り組めたことで、次年度以降の研究シーズとなる研究成果も少なくなく、学科で主催した農学科卒業論文発表会は有意義であった。一方、大学院への進学者の減少は好転しない。		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・学科内で卒業論文の内容が共有できる	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・所属研究室以外の研究室の教員、大学院生および学部生との交流が活発となる	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・大学院進学率の低迷	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・大学院進学率の向上	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名	資料包 2（令和 5 年度 農学科卒業論文発表会報告）		

3. その他に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	東京農業大学の農学科としての特徴を活かした学生の確保	農業支援関連組織（公務員【農学・農業職】、教員【農業】、企業【種苗・農薬・肥料・機械・施設・流通・金融等】およびJA）への就職支援	
実行サイクル	____2____年サイクル（令和5～6年度）	____2____年サイクル（令和5～6年度）	____年サイクル（令和____年～____年）
実施 スケジュール	通年：出張講義 通年：個人・団体見学対応 通年：指定高校推薦型選抜導入 通年：学科教員研究紹介の作成 通年：各種入試イベント	通年：企業等のインターンシップの周知 2月：公務員試験対策講座	
目標達成を測定する指標	出張講義数 個人・団体見学対応数 受験者数 新入生アンケート	<u>就職率</u>	
自己評価 (☑を記入)	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	遠隔による入試イベントで遠方の高校生への学科紹介も実施した。さらに、依頼のあった高校へは教員を積極的に派遣して模擬講義等を実施した。指定校選抜導入後、当該年度は指定校を倍増したことで進学者も倍増できた。	キャリアセンター（厚木）と連携して行政機関等のインターンシップの周知に努めた。公務員試験対策講座は対面で実施した。就職支援は長期的な取り組みが不可欠であり継続する。	
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・オンラインオープンキャンパスは全国から参加が可能となる	【長所】 ・公務員試験対策講座では、予備校でも対応が難しい専門科目をカリキュラムの必修科目を基に試験対策に特化した内容としている。	【長所】 ・
	【特色】 ・開催形式を問わず入試イベントでは、各研究室の教員が待機して、参加者からの質問に対して詳細に回答して参加者の期待に応える	【特色】 ・公務員試験対策講座の講師は、国家公務員または地方公務員を経験した教員で主に担当している	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・入試イベントでの教員の負担軽減と内容充実の両立	【問題点】 ・インターンシップのオンライン化	【問題点】 ・
	【課題】 ・入試イベントや高校訪問の人手や旅費を賄う十分な予算の確保	【課題】 ・低学年への農業関連の企業、団体および行政機関の業務内容のやり甲斐や魅力の伝達	【課題】 ・
根拠資料名	資料包3（令和5年度出張講義一覧）	資料包4（公務員試験対策講座）	

学部・研究科名農学部

学部長・研究科委員長名馬場 正

学科名・専攻名動物科学科

1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	進級・卒業率の向上	卒業生による特別講義	優秀論文発表会の実施
実行サイクル	4 年サイクル（令和 4 年～ 7 年）	4 年サイクル（令和 4 年～ 7 年）	年サイクル（ 年～ 年）
実施 スケジュール	出席状況の確認と指導 毎年6月・7月 成績不良者の指導 （4月 9月 2月）	毎年 数回実施	毎年1月に実施
目標達成を測 定する指標	進級 卒業率	実施回数	対象学生からの評価
自己評価 (☑を記入)	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明		活躍している卒業生による仕事の紹介など、学生の修学意欲を高めている	
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・	【長所】・	【長所】 ・
	【特色】 ・	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 一部、低出席と留年を繰り返す学生が存在する ・	【問題点】 若年齢で講演に呼べる対象が少ない。 ・	【問題点】 優秀を選考するプロセスに難色を示す教員もいる ・
	【課題】 目標を明確化し個別の指導を行う。一部の専修に要指導の学 生が集まらないような仕組みが必要 ・	【課題】 ・	【課題】 オープンラボという新しい取り組みを始め、ポスター発 表を大幅に増やして多くの学生が参加できる取り組みを行って いる。 ・
根拠資料名			

2. 研究に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	研究会 学会の参加		
実行サイクル	4 年サイクル（令和 4 年～ 7 年）	年サイクル（ 年～ 年）	年サイクル（ 年～ 年）
実施 スケジュール	年間を通じて		
目標達成を測 定する指標	大学院生に対しては、対象科目を設置し、学部生については特に指 標は定めていない		
自己評価 (☑を記入)	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	学会参加が学部生、院生共に多くなっている。		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 外部の研究を知ることによって質の標準化が図れる ・	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・ 他大の同専修と合同発表会を行っている取り組みもある	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名			

3. その他に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	新カリキュラムへの円滑な移行		
実行サイクル	4 年サイクル（令和 4 年～ 7 年）	年サイクル（ 年～ 年）	年サイクル（ 年～ 年）
実施 スケジュール	令和6年から新カリキュラム 8年まで混在		
目標達成を測 定する指標	時間割編成 単位取得状況		
自己評価 (☑を記入)	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	新カリキュラムの実施状況を注視		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名			

学部・研究科名農学部

学部長・研究科委員長名馬場 正

学科名・専攻名生物資源開発学科

1. 教育に関する総合的事項

	①	②
目 標	ディプロマ・ポリシーを実現するための完成年度に向けた教育課程の構築	学生の教育環境の保証（大学生活を含めた学生の充実した教育環境作り）
実行サイクル	__4__ 年サイクル（令和4年～令和7年）	__1__ 年サイクル（令和5年～令和6年）
実施 スケジュール	年間を通じて：学科会議等 12～1月：シラバス作成時	年間を通じて：学科会議、専攻会議において教員間で学生の教育および大学生活の現状を共有する（4～3月）
目標達成を測定する指標	新カリキュラムに向けた既存科目の検討を行った。 シラバスの作成と点検・見直しを大なった。	学科会議議および専攻会議議事録（教員への周知と議論内容） 学年縦断・分野横断型のプロジェクトの実施
自己評価 (☑を記入)	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	教育研究の向上を目的に既存科目の見直し一部科目の統廃合を行うと共に、新カリキュラムでは「生物統計学」、「天然物化学」を設置した。2023 年度より学科独自のシラバス検討委員会を設置し、カリキュラムの学科教員が関わる全科目のシラバスについて記載内容を点検し、その結果を学科で共有して指摘事項について改善を行った。	新型コロナウイルス感染症の 5 類移行に伴い、講義、実験実習、学内行事の完全対面実施に向けた検討を行い実施した。 2022 年度から開始した山梨県小菅村での学年縦断・分野横断型のプロジェクトを継続した。2023 年度より本活動は農学部農業実習インターンの単位として認定された。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 第3 者によるシラバス点検と改善に努めた。	【長所】 学生の意識や学習意欲が把握できること。学科独自の教育の場を提供できること。
	【特色】 カリキュラムの点検と次期カリキュラム改正に向けた検討を開始した。 入試制度、特に推薦入試による多様な人材を確保するため、志願者の要望と現状に即した募集となるように検討した。	【特色】 月2 回の学科会議、月1 回の専攻会議で FD 関連の情報共有に努めている。 小菅村でのプロジェクトに関する説明会をフレッシュマンセミナーの授業で実施した。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 なし	【問題点】 なし
	【課題】 なし	【課題】 なし
根拠資料名	7. 2023 学科会議，学科教授会等の開催日程	

2. 研究に関する総合的事項

	①
目 標	多様な地域、環境における生物多様性の解明、保全、生物資源の持続的な利活用に関する総合的研究の基盤構築
実行サイクル	4 年サイクル（令和4年～令和7年）
実施 スケジュール	年2回程度の研究発表会等の開催 学内研究プロジェクト、外部資金プロジェクトの推進
目標達成を測 定する指標	学内プロジェクトに関わる業績や外部資金申請数、採択数
自己評価 (☑を記入)	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	院生は農学部研究発表会ならびに各自の関連学会での発表を行った。 2022年度からは、山梨県小菅村を調査地として、分野横断型のプロジェクトを開始した（2022年3月17日締結）。3・4年生、院生は研究の場として活用し、2023年度は、野生動物学研究室、昆虫学研究室、遺伝資源利用学研究室が研究調査を実施した。 2023年12月の厚木キャンパス大学院研究発表会で博士前期課程2年生全員が発表し、一部のM1も発表した。2024年2月に生物資源開発学専攻独自の発表会（博士前期課程1年）を開催した。 学外講師による特別講義も活用しながら学生の研究意欲の向上に努めた。公的研究費の獲得では日本医療研究開発機構（AMED）委託研究費1件などが採択された。 学科教授会で大型機器の導入、設備の更新に関する議論を行った。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 分野横断的な教育研究が促進される。学科教員によるプロジェクト研究の推進により、生物多様性に関する研究基盤の構築が進んでいる。
	【特色】 分野横断的な研究展開により学科の特徴を分かりやすく発信できるようになる。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 なし
	【課題】 なし
根拠資料名	

3. その他に関する総合的事項

	①
目 標	アドミッション・ポリシーに則った学生と学生数の確保
実行サイクル	4 年サイクル（令和4年～令和7年）
実施 スケジュール	<u>通年：出張講義</u> <u>通年：個人・団体見学対応</u> <u>キャンパスツアー、オープンキャンパス、収穫祭の進学相談時の対応</u>
目標達成を測 定する指標	<u>来場者数</u> <u>受験者数</u> <u>新入生アンケート</u>
自己評価 (☑を記入)	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	年間に複数回のキャンパスイベントを実施し、来場者に学科の魅力を伝えている。 本年度の受験者数、入学者数が増加した。 開設年度より毎年、学科独自の新入生アンケートを実施し、新入生の志望動機を分析することでアドミッション・ポリシーに基づいた学生の受け入れができているかを検証している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 イベントで自然環境に恵まれたキャンパスを周るツアーを実施して多くの参加者があるなど、生物に関心のある学生とその保護者に PR することができる。
	【特色】 生物に強い関心を持ち、高校までに生物分野に関する活動実績を有する学生が非常に多く入学している。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 なし
	【課題】 なし
根拠資料名	1. ～ 4. （2023 年度オープンキャンパス集計データ） 5. 2024 年度入試結果 資源(取扱い注意) 6. 2023 年度新入生アンケートデータ(取扱い注意)

学部・研究科名農学部

学部長・研究科委員長名馬場 正

学科名・専攻名デザイン農学科

1. 教育に関する総合的事項

	①	②
目 標	本学科のディプロマ・ポリシーの確立固めを目指し、前年度までの成果を分析して、今後のカリキュラム設定を円滑に行う。	
実行サイクル	1 年サイクル（令和5年～令和6年）	
実施 スケジュール	・年間を通じて：学科会議、カリキュラム検討会など ・12～1月：シラバス作成	
目標達成を測 定する指標	・学科会議の実施 ・カリキュラムおよびシラバスの作成と点検・見直し	
自己評価 (☑を記入)	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	
目標に 対する 現状説明	学科会議を定期的および必要に応じて臨時で実施している。 専門性を生かしたシラバスの作成を実施している。	
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・特になし	
	【特色】 ・特になし	
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし	
	【課題】 ・特になし	
根拠資料名	・学科会議議事録	

2. 研究に関する総合的事項

	①
目 標	充実した研究活動の活性化を目指し、研究室の体制を整える。 (研究室所属3,4年生の年間を通じた交流機会を増やし、研究活動および引継ぎなどの円滑化を図る)
実行サイクル	1 年サイクル (令和5年～令和6年)
実施 スケジュール	・年間を通じて：研究室における研究活動 ・中期：卒論中間発表 ・後期：卒論発表および卒論提出
目標達成を測 定する指標	・研究室活動への出席状況 ・卒業論文の成果
自己評価 (☑を記入)	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	研究室での活動が復活し、研究室所属学生全員の出席がみられ、収穫祭・文化学術展へ全研究室が出展参加した。 卒論研究の活性化により、卒論内容の充実が図られ、卒論発表会が対面で実施された。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・研究室所属学生の交流機会が増え、人的繋がりが強まるとともに、研究が進展する。
	【特色】 ・3,4年生が共存することで、上級生から下級生への引継ぎが効率よく、研究が滞りなく進む。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・特になし
根拠資料名	・卒業論文 ・収穫祭パンフレット

3. その他に関する総合的事項

	①
目 標	アドミッション・ポリシーに則った学生と学生数の確保
実行サイクル	1 年サイクル（令和5年～令和6年）
実施 スケジュール	・通年：出張講義および高校訪問 ・通年：個人・団体見学対応 ・キャンパスツアー，オープンキャンパス，収穫祭の進学相談時の対応
目標達成を測 定する指標	・出張講義数 ・見学者数 ・進学相談者数 ・学生数
自己評価 (☑を記入)	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	依頼のあった出張講義や見学依頼に積極的に対応している。（令和5年度：出張講義13校、高校訪問5校、見学対応8件） 進学相談に学科教員で対応している。（令和5年度：合格者向け説明会を独自に対面でも実施・3件）
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・受験希望者からの情報収集（農大およびデザイン農学科への関心度、要望など）が可能である。
	【特色】 ・特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・特になし
根拠資料名	・学科会議議事録